

文部科学大臣賞 団体の部 受賞校

さとえ学園小学校 書写教育の取り組み

さとえ学園小学校

山口 遥 加

1 はじめに

本校は埼玉県さいたま市にある、学校法人佐藤栄学園に属する私立の小学校です（系列校：栄東中・高、埼玉栄中・高）。本年度創立22周年を迎えました。建学の精神「人間是宝」、校訓「今日学べ」の教えのもと、子どもたち一人ひとりの「豊かな個性」や「内在する可能性」を磨き、育てることを理念としています。集団と個との関わりの中で、「自ら考え」「自ら判断し」「自ら意思決定をし」「意欲的、積極的に行動する」子どもたちを育てるために、本物の体験的な活動を生かした系統的な学びを教職員一丸となって追求し、日々の教育活動に取り組んでいます。

2 書写教育の具体的な取り組み

（1）授業、放課後教育

1・2年生は各教室での担任による硬筆の授業、3年生からは書道室に行き毛筆指導担当者による授業を行っています。硬筆では、鉛筆の持ち方や姿勢の指導から始め、字形やとめ・はね・はらいなどを子どもたちと一緒に細かく丁寧に確認しています。3年生からの毛筆では、専用のタブリエを着て、基本となる始筆・終筆の授業から始まり、その後は点画や文字の組み立てなど、1時間ごとの目あてを明確にして課題に取り組んでいます。

また本校には、放課後教育として独自に開発した「複合型教育」という名称のプログラムがあり、芸術系・運動系・学習系の特色ある様々な講座が開講されています。その中の一つに、本校教員が硬筆・毛筆指導を行う講座「書楽」が週4日間開講しています。今年は1年生から6年生までの希望する児童122名が希望する曜日に受講しています。個に合わせた指導を行っているため、硬筆分野の課題が修了すると、1年生からでも毛筆課題に取り組むことができます。

（2）行事

学校全体で取り組む主な書写行事は、6月の校内硬筆展、12～1月の校内書き初め展です。優秀作品には校長賞や教頭賞、金賞、銀賞が授与されるため、子どもたちが高い意欲を持って取り組んでいます。

「複合型教育」の講座「書楽」では、校内行事のほかにも外部の展覧会に出品する機会を設けています。また、6年生の受講者には、6年間の集大成として、大筆を使ってその年の運動会のテーマを書くパネル作成に挑戦できる貴重な機会もあり、好評を得ています。

3 おわりに

この度は、文部科学大臣賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。この受賞は、学校としての取り組みだけでなく、ご家庭からのご理解、ご協力があったからこそだと感じております。また、書画展という発表の場において、本校の多くの子どもたちの日々の努力が評価されたことに心から感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も書写教育のさらなる充実を図りながら、子どもたちのよりよい力を磨いてまいります。ありがとうございました。

専用の書道室での複合型教育「書楽」での授業の様子



6年生による運動会テーマパネル作成



文部科学大臣賞 団体の部 受賞校

芝浦工業大学附属中学校の取り組み

芝浦工業大学附属中学校

1 はじめに

本校は東京の豊洲にある芝浦工業大学の附属校です。「理工系人材の育成」を教育の根幹に据え、『わくわくする学校』『オンリーワンの魅力ある学校』を目指して、4つの教育を重視しています。「理工系(STEAM)教育」「大学連携教育」では実践的なものづくりや体験を重視しています。「キャリア教育」「グローバル教育」では未来への懸け橋となるグローバル理工系人材を育成します。生徒一人ひとりの「可能性の扉」を開くべく、革新を続けています。

2 書写教育での取り組み

(1) 国語科での取り組み

当校書写の授業では、まず「姿勢」の指導から始めています。授業開始の号令とともに、構えや筆記具の持ち方を意識させることで、活発な生徒たちが書写学習への心構えを整えられるよう指導しています。

授業では、書体とその特徴について本質的な理解を促すことを重視しています。文字の成り立ち、点画の連続性、筆脈の実線化など、書体の特徴を丁寧に解説することで、生徒たちが教科書の模倣ではなく、「なぜそのように書くのか」という根本的な問いと向き合えるようになりました。また、「先生になったつもりで、書く時のポイントを考えてみよう」という活動を取り入れ、生徒が課題の要点を言葉で説明する機会を設けています。これにより、生徒が自身の課題を主体的に発見し、改善する力が着実に育まれつつあります。

このような取り組みを通じて、現代社会における手書き文字の意義を生徒とともに考察し、実践的な書写教育を目指しています。

(2) 学校内での取り組み

毎年1月には校内書道展を開催し、保護者の皆様にも生徒の作品を直接ご覧いただける機会を設けています。保護者の方々からの温かい感想や激励が、生徒たちにとって大きな励みとなり、さらなる向上心を育む一助となっています。

3 おわりに

この度は、文部科学大臣賞をいただき、大変光栄に思います。長年、生徒たちは貴展覧会に参加し、評価していただく機会を励みにしておりました。理工系の生徒だからこそ、書を通じて文字への関心を深め、正しい姿勢や礼儀作法も学ばせたいと思っています。今後も生徒が書に親しみ、書く喜びとその精神に触れる指導をしていきたいと思っています。毎年、生徒たちが貴展覧会に出品し、丁寧な審査をいただくことで、大きな励みになっております。展覧会の運営にご尽力いただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。



文部科学大臣賞 団体の部 受賞校

本校における図画工作の取り組み

鹿児島市立向陽小学校

遠 矢 久 美 子

1 はじめに

本校は、雄大な桜島と秀麗な錦江湾を展望できる高台に位置し、633名の明るく素直な子供たちが学ぶ学校である。校名にもある「向陽」は、地域住民が名付けた地名で、太陽に向かって限りなく発展してほしいという願いが込められており、本校は、地域のシンボリックな学校となっている。

本校の教育活動の基盤は「自他のよさを認め合い、児童一人一人が大切にされ、自分にも学校にも地域にも誇りを！」という人権尊重の精神である。学校教育目標「夢をもち、心豊かでたくましく学び続ける子供の育成」を目指して教育活動を実践している。

2 図画工作（絵画指導）の取り組み

(1) 教材選びの工夫

児童の一番好きなこと、一番楽しかったこと、一番興味のあるもの等、かきたいという気持ちを絵に表現できるようにしている。また、校内・外の建物や学校行事の様子等をタブレットで撮影し、そのデータを活用して表現に生かしている。どの学年でも活動した様子などについて、教師の言葉かけによりイメージを広げ、意欲を高め、自由にのびのびと表現することを心がけている。

(2) 構図の工夫

- ・構図については、児童の表現意図や必要に応じて、頭に思いえがくだけでなく、アイデアスケッチ等で実際に視覚的に明確にしてから取り組ませている。
- ・多様な表現が生まれるように、偶然性のある描画材を準備し、選択させている。
- ・低学年は、一番描きたいものが伝わるように、大きさなどを工夫するように助言している。
- ・中学年では、中心となるかきたいものだけをかくのではなく、中心となるものの周りの人や物の重なりも意識させて、前後の感覚を育てることを意識している。
- ・高学年では、中心となるものや重なりだけでなく、大小の関係性や、色合いなどにも視点を向けさせ、遠近感への気づきを大切にしながら、実際に彩色する際に考えさせる時間を設定している。

(3) 色づくりの工夫

- ・低学年では、主な描画材をクレヨンとし、幼稚園・保育園等での経験を活かしながらのびのびと表現できるようにしている。その際、使うクレヨンの色をあえて制限したり、増やしたりしながら、線のおもしろさを感じさせるようにしている。また、児童の思いを大切にし、無理に全面を彩色するような指導は行わないことを共通理解している。
- ・中学年では、水入れやパレット、絵の具の混色について確実に指導している。また、絵の具を混ぜる際は、2～3色で混ぜ、色が濁らないようにすることにも気付かせるようにしている。
- ・高学年は、絵の具の混色方法だけでなく、水の含ませ方も指導し、色に濃淡がでるよう指導している。児童の思いに寄り添いながら、色を工夫する中で、遠近感が出ることに気付かせている。

(4) 鑑賞の取組

表現活動にける時間は、30分間から45分間とし、集中して取り組めるようにしている。活動に取り組んだ後に、全員で友達の絵を鑑賞する時間を設定し、友達の作品のよさを自分の言葉で伝えさせている。全ての児童の作品が称賛されるように視点を工夫し、教師の称賛を加えることで、意欲が途切れないようにしている。

また、場合によっては活動の途中で鑑賞の場面を設定し、取り入れたい工夫や良さを話し合い、その後の表現活動に生かせるようにしている。

3 おわりに

本校の多くの児童が、入賞させていただいただけでなく、文部科学大臣賞という評価をいただいたことに、児童も職員も喜んでいる。この賞を糧とし、さらに児童に表現する喜びを味わわせ、主体性や自己肯定感の向上に繋げていきたい。

文部科学大臣賞 団体の部 受賞校

本校における美術科の取り組み

松戸市立河原塚中学校

田 宮 麻 美

1 はじめに

本校は千葉県北西部に位置し、首都圏の位宅地として発展している。本校の校門をくぐり、坂を上ると大きなヒマラヤスギと河原塚古墳に見守られ、丘の上に学び舎がある。晴れた日には、西の方向にスカイツリーや富士山が、また北の方向には筑波山や日光の山々などが広がり、素晴らしい景観が眺める。

2 本校の取り組み

本校は目指す生徒像として、「仲間との学びを大切にし、自ら進んで学習ができる生徒。思いやりの心を持ち、自他の命・個性を大切にできる生徒。自分で判断し行動でき、心身ともに健康な生徒。」を掲げている。美術科では、作品鑑賞などから互いの作品の良さを認め評価する時間を大切にしている。また、生徒の創造力を大切にし、最大限に表現できるよう参考作品の提示や ICT の活用も心掛けている。

(1) 基礎・基本の指導から技術の習得へ

レタリングや鉛筆画などの基礎・基本に繰り返し取り組むことにより、作品の丁寧さや細かさなどを表現できる高度な技術を習得できるよう、3年間の指導を見据え計画的に学習を進めている。基礎学習を終えた後は、基礎の学習を複合的に盛り込んだ長期題材を設定し、作品を完成させる喜びを味わえるようにしている。

(2) 作品の取り組み

展覧会へ積極的に出品したり、自分の作品を多くの人に見てもらおうと校内展示を定期的に行ったりするなど、各自が目標に向かって取り組んでいる。また、お互いに感性を磨き合うため、作品についての意見交換の場を設け、イメージが付きやすくなるような発想のきっかけづくりに力を入れてきた。今後も生徒の表現したいものが十分に発揮できるように支援していきたい。

3 おわりに

本年度の「画の部」における「中学校部門 文部科学大臣賞」の受賞に、子どもたちは感動するとともに今までの活動に対して自信が深まった様子が伺える。この賞を受け、美術部だけでなく、学校全体の美術科に対する意欲向上につながるとともに、生徒一人ひとりの作品制作に向かう大きな励みとなった。これからも全国書画展会への応募を続け、一人でも多くの子どもが励みとなるよう支援を続けていきたい。

